

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第1部課程第145期）

和歌山県 企画部企画政策局文化学術課 岡田 恵実

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

はじめに

令和7年10月21日から令和8年3月6日までの4ヶ月半、自治大学校第1部課程145期での派遣研修を終えました。この充実した研修経験を、これから派遣を検討される自治体の参考になればと思い、自分の体験を記します。

自治大学校で得たもの

この集団の最大の価値は、全員が豊富な実務経験をもっており、それぞれの自治体の課題を背負っていることです。実際に災害を体験した自治体の職員から現地対応の実態を聞き、支援に派遣された職員から現地での課題を学びました。また、広大な圏域を抱える自治体の施設管理の難しさ、雪深い地域では冬に工事ができないという制約、公共交通を支えるサービスデー施策など、全国の様々な事例を直接聞くことができました。

特に印象的だったのは、所属自治体では当たり前だと思っていた制度が他の自治体にはないという発見です。他自治体の利用ツールや制度を聞くことで、自分の自治体の特性を相対化する良い機会となりました。このような全国の課題解決の事例や制度の違いを直接学べる環境は、通常の業務では得難いものです。これは、4ヶ月半の期間に寝食を共にし、苦労を分かち合ったからこそ得られた経験でした。

実践的な講義と多様な演習形式

講義では、大学教授や現役の事務次官、弁

護士といった方から、憲法、法律、防災、農政、観光、地域医療などの講義を受講しました。特に145期ではAI関連の授業が充実していたため、所属自治体に戻ったあとも、研修で得られたスキルをすぐに利用することができました。

演習で特に興味深かったのは、受講生の経験から見えてくる課題や解決方法です。生活保護ケースワーカーの経験から語られる公務員倫理の実例や、実施されている財政運営の工夫など、テキストだけでは学べない内容が次々と出てきました。

自治大学校が最重視する政策立案演習では、グループで1つのテーマに4ヶ月をかけて取り組みます。

グループ内では、異なるバックグラウンドを持つメンバーが協力し、テーマに関する調査、分析、資料作成から発表までを行いました。私のグループには群馬県、千葉県、徳島県、香川県高松市からの研修生がいました。このようなメンバーなので、いろんな考え方や視点があり、出てくる意見も考え方も非常に興味深いものばかりでした。

また、政策立案のメンバーのみならず、どの研修生もいろんなスキルや技術を有しており、非常に優秀な方ばかりでした。説得力のある話し方、施策をわかりやすく説明する資料の作り方、他メンバーや先生との上手な調整、しかもそれを他の研修生に伝授することができたり、特別なスキルがなくても使いこなせるツールを知っていたりとそれぞれが多様な技術や知識を有していたため、授業や演習を通して非常に勉強になりました。

全国ネットワークの構築

4ヶ月半の研修期間を寄宿舎で過ごしたことで、講義や演習の時間だけでなく、談話室での交流、放課後のジム活動、休日の旅行などによって、日常を共にし、趣味を共有することで、関係が深まりました。

研修期間中、地震が発生した時には、夜中にもかかわらず自然と皆が談話室に集まり、一緒にニュースを見守りました。この研修に参加したことで、同期の研修生が所属する自治体を、同志の居場所として認識するようになりました。

そのため、彼らは困ったときは所属自治体の職員からでは得られない視点からアドバイスしてくれますし、私が研修に参加していたからこそ、私の所属自治体についても関心をもってくれたと確信しています。

職員のキャリア形成や人生への影響

自治大学校に派遣された先輩職員の話を見ると、多くが「この研修を通じて視野が広がった」「全国ネットワークができた」「その後のキャリアのみならず人生に大きな影響を与えた」と言われます。

また、前述ではさも真面目に研修だけをしていたような書きぶりでしたが、皆の趣味に触発されていろいろな経験もしました。私自身も金時山や陣馬山など日帰りが可能な名山に登るなど、登山などの新しい趣味に目覚めました。

他にも、百名店を巡ってカレーやラーメンを探求したり、アイドルを応援したり、マラソンをする人たちのために有志がうちわをつくってくれて、うちわを持って応援したり、美術館や博物館や庭園にいたり、絶景や温泉を堪能したりと、ここには書き切れないほどたくさんの思い出ができました。そして、いろいろな人たちがいたため、それぞれの趣味や興味が影響しあって、今まで

知らなかった世界に没入していきました。今年の7月には、自治体の仲間に触発されて、今までいったこともない野球観戦にも連れて行ってもらう予定です。

全国の仲間と政策課題や条例立案などについて議論し、第一線で活躍する講師から学び、実装を想定した政策立案やディベートに取り組む経験は、その後の職員育成や政策形成において、確実に活かされるものと考えられます。そして、職員自身のキャリアのみならず、個人としてこれからの人生を楽しむヒントをたくさん得ることができました。

終わりに

自治大学校は、単なる講義を受講する研修機関ではなく、全国の人材が集う場です。そこで得られる知識、経験、ネットワークは、その後のキャリアを通じて、継続的に活用される財産になります。

派遣研修に参加することで、職員の政策形成能力やマネジメント能力が向上し、その職員が所属自治体に戻った後、その能力が組織全体に波及することが期待できます。その上、派遣に参加している職員の所属自治体のことに関心を持ち、協力してくれる心強い味方が全国にいることは、何にも代えがたい財産になります。

この充実した環境と機会を提供いただいた多くの方々へ感謝し、自治大学校で学んだ知見を活かし、今後の職務に貢献していく所存です。